

次号予告

とびら 国立身障センター 鈴木正彦

特集＝新任職員に対する院内教育

神奈川リハセンターの新任者教育(仮)..... 神奈川リハセンター 佐藤 馨・他

都心身障者福祉センターの新任者教育(仮)..... 都心障センター 寺山久美子・他

九州労災病院の新任者教育(仮) 九労病院 下畑 博正・他

座談会／新任職員に対する院内教育 東大病院 木村 信子・他

海外での経験 ... 伊藤病院 奈良 勲／都老人研 鎌倉 矩子／九州リハ大 橋元 隆

神奈川リハセンター 原 和子

資料..... 府中リハ学院 鈴木 明子

講座 運動学シリーズ I 「歩行(4)」..... 都養育院 松村 秩

絵画療法(2) 神経研究所 徳田 良仁

研究と報告 リンパ浮腫の理学療法 慶大病院 灰田 信英

Q and A..... A: 大阪府心障センター 花岡 俊行
Q: 聖母整肢園 紀伊 克昌

メディカルプロGRESS 七沢病院長 横山 巖
川崎医大病院 明石 謙

編集後記

本号は、臨床家としての OT・PT の方々にも興味深く読んでいただけるよう、編集担当者の願いがこめられている。管理・運営・倫理にあまり好意的でない、読者の方々には申しわけないが、私はこれらがとりあげられることを喜ぶ、読者の一人である。

砂原先生が、Profession は告白とか宣言の意味、と書かれておられる。PT 協会は現在、倫理規定案を作成中である。OT 協会会長鈴木先生も、倫理の明文化を、協会の今後の仕事としてあげておられる。まもなく私達も、専門家の団体としてよって立つところ、及び信念を、社会に告白・言明できるわけで、遅ればせとはいえ、やはり両協会10年の熟すプロセスを思いながら、ページを繰った。

患者に対する心構え、座談会を読ませていただくと、OT・PT は、日々心を育て、技術をみがかざるを得ない職業であること

とを再確認させられる。正に、患者さんは、私達の教師である。

前に特集された教育と共に、運営・管理も、臨床・研究と同じく、OT・PT の専門分野で、それに携わる人々には、その方面の教育が必要なこと、これが各所で読みとれる。今後の私達の、課題である。

患者の書く絵から、内的表現を読んで、精神療法へ応用という、講座「絵画療法」は、今後も興味深く読ませていただきたい。

いかにもゴテゴテとして、機械的でなかった装具の改善に、深い関心を示す医師の働きの大きいことを、常々見てきたが、本号の Q and A に、あらためてそう思う。電動車椅子に関する展望についても、同じ思いである。

運営・管理・倫理と共に、運動学シリーズ、研究と報告、その他それぞれの分野で、本号も、読者の方々に読みごたえがありますように。

(田村美枝子)

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院長

五味 重 春

府中リハビリ学院長

砂 原 茂 一

国立療養所東京病院長

津 山 直 一

東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎

川崎医科大学学長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

都養育院リハビリ部

佐 藤 馨

神奈川リハセンター

鈴木 明子

府中リハビリ学院

谷 岡 淳

自治医科大学

田 村 美枝子

清瀬リハビリ学院

寺 山 久美子

都心障センター

松 村 秩

都養育院リハビリ部

<編集同人>

明 石 謙

大 井 淑 雄

大 川 嗣 雄

大 橋 博

鎌 倉 矩 子

紀 伊 克 昌

小 林 夏 子

駒 沢 治 夫

佐 藤 剛

田 原 澄 彦

富 岡 詔 子

奈 良 勲

藤 沢 しげ子

藤 本 欽 也

前 田 守

松 本 妙 子

矢 谷 令 子

山 下 隆 昭

横 山 巖

和 才 嘉 昭

(担当 細田・松橋)

<訂正・お詫び>

本誌9巻5号336頁の編集後記文中、右段11行目に「機械的でなかった」とあるのは「機能的でなかった」の誤りでした。ここに訂正してお詫び致します（編集室）。
